

認証評価結果に対する改善報告書

平成 29 年 7 月 24 日

1. 大学名：福山平成大学

2. 認証評価実施年度：平成 26 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○福祉学科の収容定員充足率が著しく低いので、改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2-1 について

(1) 改善状況および結果

福祉学科の平成 27 年度から平成 29 年度までの入試状況は、別紙のとおりである【2-1-1】。
収容定員充足率は、平成 27 年度は 48.3%と落ち込んだが、平成 28 年度は 50.4%、平成 29 年度は 50.8%と僅かずつではあるが改善傾向がみられる【2-1-2】。

(2) 改善への取り組み

福祉学科の広報、教育実績の向上、および学生に対する訴求力の向上に取り組んだ。

①福祉学科の広報活動の展開

福祉学科のウェブページに、「こんなステキな先輩が」シリーズなど、さまざまな企画を立てて、頻繁に記事を更新し、学科の魅力を発信することに努めた【2-1-3】。

また、福祉科がある高校、大学の近隣にある高校、および入学生の出身校の 3 点を基準に選び、高校訪問を実施し、学科の魅力とカリキュラム内容を伝えた【2-1-4】。

さらに、以前から実施している、高校生を対象とした高校生ボランティア交流会を、中身を刷新して、「医療・福祉・心理・教育職をめざす高校生のための MTS（学べる！体験できる！習得できる！）セミナー」として開催し、福祉学科への関心を深め、入学への動機を高めた【2-1-5】。

その結果、高校 3 年生のオープンキャンパス参加者数は、増加傾向にある【2-1-6】。

その他、地域との連携事業として「平大認知症カフェ」を実施した【2-1-7】。このカフェは、大学での取り組みが全国で 2 番目であることもあり、マスコミにも数多く取り上げられ、福祉学科の知名度を高めることに大いに貢献した【2-1-8】。

②国家試験の合格率の向上に向けた取り組み

国家試験の合格率は、本人はもとより保護者や高校教員にとって、入学を決める大きな要素である。そこで平成 28 年度に、学修支援システム「セレッツ」を利用した社会福祉士国家試験の「過去問題学習支援ツール」を作成し、いつでも過去問題に取り組める環境を築いた。また、本ツールにおける成績を条件に模擬試験の受験料を補助するなど、学修への動機付けを行った。その結果、社会福祉士国家試験の合格率は 33.3%を達成することができた【2-1-9】。

③その他

以上のほかに、福祉学科の魅力を高めるため、国家資格ばかりではなく民間資格も就職に有利に働くことを考慮して、福祉住環境コーディネーター2級および3級、福祉用具専門相談員の資格取得を支援した【2-1-10】。

また、身体に障がいがある学生などに対しても、学びやすい環境を整え、就職に結びつけて卒業できるよう支援している。

今後は、従来の取り組みをさらに進めるとともに、地域の事業所と連携した奨学資金貸与制度の創設や、福祉職に対するイメージを改善するための大学教員と高校生とが接する機会の拡充、幅広い視野で考える力を養うための海外研修の実施などを検討している。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目2-1の資料

- 【2-1-1】福祉学科入試状況の推移
- 【2-1-2】福祉学科収容定員充足率の推移
- 【2-1-3】福祉学科のウェブページ
- 【2-1-4】平成27年度および平成28年度訪問先高等学校
- 【2-1-5】福祉学科平成28年度事業実施報告書
- 【2-1-6】高校3年生のオープンキャンパス参加者数
- 【2-1-7】「平大認知症カフェ」の概要
- 【2-1-8】「平大認知症カフェ」に関する新聞記事
- 【2-1-9】模擬試験受験の動機付けと社会福祉士国家試験合格率
- 【2-1-10】民間資格取得者数

以上